

令和2年度

小牧市放課後子ども総合プラン導入検討委員会

(第4回)

日 時	令和 2年10月13日 (火)
	午前10時00分から
場 所	小牧市役所 本庁舎 3階301会議室

## 令和2年度第4回小牧市放課後子ども総合プラン導入検討委員会

日 時	令和2年10月13日（火）午前10時	
場 所	小牧市役所本庁舎 3階 301会議室	
学識経験者	愛知文教大学 特任教授	副島 孝
教育関係者	小牧市教育委員会 教育委員	伊藤 和子
	小牧市小中学校校長会 代表	中川 裕子
	光ヶ丘小学校 教頭	倉知 憲
	小牧小学校 学校地域コーディネーター	佐橋 明味
	光ヶ丘小学校 学校地域コーディネーター	山井 真理子
	放課後子ども教室安全管理指導員	山岸 伊久美
児童福祉 関係者	小牧市社会福祉協議会 代表	山田 好広
	小牧児童クラブ 所長	中嶋 とも江
	光ヶ丘児童クラブ 所長	柿本 美津江
	北里児童クラブ 所長	香村 理恵子
	篠岡児童館 館長	寺田 友子
地域住民	小牧小学校 P T A母親代表	鈴木 桃代
	光ヶ丘小学校 P T A母親代表	馬場 正美
欠席委員	小牧小学校 校長	岩瀬 将之

## 【事務局】

皆様、おはようございます。

本日は、お忙しい中お集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから、令和2年度第4回小牧市放課後子ども総合プラン導入検討委員会を開催いたします。

私は、本日の司会を担当いたします、こども政策課長の伊藤と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の委員会につきましては、新型コロナウイルス感染予防のため、事務局はマスクの着用をさせていただいております。発言等が聞きづらく感じられる部分もあるかと思いますが、御理解のほどよろしくお願いいたします。

それでは、資料の確認をさせていただきます。

事前に配付いたしました資料といたしまして、次第、資料1、資料2につきましては、本日机上に配付させていただいたものと差替えをお願いしたいと思います。資料1といたしまして、小牧市放課後子ども総合プランに関する提言書(案)、資料2といたしまして、小牧市放課後子ども総合プランの概要ということで、本日机上に置かせていただいたものを資料として使わせていただきたいと思っております。不足等はよろしかったでしょうか。

それでは、本日は傍聴の方が2名おみえになることを御報告させていただきます。

また、会議の定足数につきましては、要綱第5条第2項の規定により、委員の過半数の出席が必要とされております。本日は14名の方が出席されており、会議として成立することを御報告させていただきます。

それでは、こども未来部長の鍛冶屋より御挨拶申し上げます。

## 【事務局】

皆さん、おはようございます。

本日は御多忙のところを第4回検討委員会に御出席をいただきまして、大変ありがとうございます。

本日の第4回委員会で、昨年度から延べ8回にわたる本委員会の最後となります。今まで委員会に御参加いただき、また、多くの貴重な御意見をいただきましたこと、誠にありがとうございました。

本日御協議いただく提言書をもってモデル事業前の検討としては区切りとなりますが、本委員会は運営委員会としてモデル事業の協議、検証等で来年度も引き続き開催し、制度の継続的改善を図っていきたいと考えております。

本日は、提言書の総まとめとして忌憚のない御意見をいただきますことをお願い申し上げますとともに、委員の皆様方には、今後も放課後子ども総合プランのさらなる改善のために、それぞれのお立場から御意見や御協力いただければ大変ありがたいと考えております。

本日もどうぞよろしくお願い申し上げます。

## 【事務局】

それでは、これからの進行につきましては、副島委員長にお願いいたします。

## 【副島委員長】

それでは、ここからは、私のほうで進行させていただきます。

お手元の次第に基づいて会議を進めますが、本日の議題は1つだけ、小牧市放課後子ども総合

プランに関する提言書「等」とついていますが、提言書の内容をまとめる最後の機会になりました。今回最終回ですので、ぜひいろいろな意見をお聞かせいただきたいと思います。

それでは、事務局から説明をいただきます。

## 【事務局】

それでは、小牧市放課後子ども総合プランに関する提言書等について説明させていただきます。資料1をお願いいたします。

前回の委員会での御意見等を踏まえ、提言書を一部修正いたしましたので、修正部分を説明いたします。

まず、最初に2ページをお願いいたします。

中央に【経緯】という表がございまして、下から2つ目の令和2年2月の部分について、右側の内容の欄の一番最後にとじる括弧がついておりますが誤字ですので、この括弧は削除という形をお願いいたします。

続きまして、3ページをお願いいたします。

1行目の表題の後半、前は令和元年5月になっておりましたが、こちらを6月に修正いたしました。

4ページをお願いいたします。

表の右列にある放課後子ども教室の列ですが、上から8番目となります登録者数の欄について、279人（2年度2学期）を追記いたしました。前は元年度のみ表示でありました。なお、新型コロナウイルス感染症の影響により、元年度の数字と比べて非常に数が減っているということもございまして、基本この表は令和2年度の表ではございますが、この部分のみ参考として619人（元年度）も残したままの表記としております。

それから、この表自体がおおむね縦を中央揃えで表記しておりますが、縦の行数が長くなると、例えば、上から2つ目の「目的」ですとか一番下の「現状と課題」が、形態上、少し見づらさを感じますので、この体裁は事務局で調整させていただきます。

5ページをお願いいたします。

一番下の【体制図】になります。こちらにつきましては、全般的に修正をいたしました。主な修正内容として、まず左上に、市として、こども政策課、学校教育課、新たに設置しようとする放課後子ども総合プランコーディネーターを表記し、それぞれが相談、調整するという形で図を作成しております。

それから、中段にございます児童クラブ所長と学校地域コーディネーターを点線で囲み、合同の体験活動の内容調整を両者間で一体的に進めること。また、放課後子ども総合プランコーディネーターや学校との調整を両者が一体となって進めるということで表記を変更しております。

7ページをお願いいたします。

前回の提言書では、7ページの表題を5番の「モデル事業について」、それから、次の8ページの表題を6番の「実施体制について」と表記しておりましたが、4ページから小牧市の放課後子ども総合プランの姿を表記する流れで作成しておりますので、この順番を逆にし、7ページを5の「実施体制について」、8ページを6の「モデル事業について」ということで、7ページと8ページをそのままそっくり入れ替えをしております。

続いて7ページですが、中段にあります【実施体制図】の一部を修正いたしました。主な内容としては、中段に学校区毎の協議会の開催を前は年1回程度と記載しておりましたが、年1、2回程度に修正しました。さらに協議会という形で四角に囲われて3つ並んでいる下に点が3つ、3行続いておりますが、2つ目の点で、前は「こどもの状況などの情報共有」という部分で始まっておりましたが、それを「地域ボランティアの状況などの情報共有」に修正しております。

それから、一番下に括弧して、「活動場所、児童の状況など」を追記しております。  
10ページをお願いいたします。

⑥として、「児童にとって放課後は、自主性・主体性が尊重される場であることが必要であり、児童が自ら選択したり、創意工夫しながら参加できるような活動等についても検討すべきであること。」を追加しました。

それから⑧、こちらは前回の提言書では⑦でしたが、前半の表記を「ボランティアの確保策として、社会福祉協議会ボランティアセンター、市民交流テラスなどの登録ボランティアとのマッチングを行うほか、」に修正しております。

提言書の修正は以上となります。

続きまして、資料2をお願いいたします。

前回の委員会において、主に対外的な説明資料として、小牧市の放課後子ども総合プランをおおむね1枚程度にまとめた資料を作成させていただくこととなりましたが、こちらの資料となります。事前に郵送で配付させていただきました資料につきましては、どちらかといえば、利用者向けの色合いが強いものでしたが、今回、机上で配付させていただいた資料につきましては、これから放課後子ども総合プランコーディネーター等の予算を市内部で折衝する中で、その説明用として作成したものになりますので、よろしくをお願いいたします。

大きくは、上段に「小牧市の放課後子ども総合プランの目指す姿」や「実施」の経緯、中段に、左から「児童クラブ」、「合同の体験活動」、「放課後子ども教室」と、縦軸に実施時間を取って並べております。下段には、プランを実施するに当たっての従事者、それから、その従事者を支える体制として、市や放課後子ども総合プランコーディネーター、学校を記載しております。

資料の説明は以上です。本日が最終の委員会となりますので、修正点等の御意見、よろしくをお願いいたします。

## 【副島委員長】

ありがとうございました。

まずは、提言書からいきたいと思いますが、前回にも提言書を出されて、それについていろいろな御意見もあったので、一部修正が加えられています。これについて、何かお気づきの点、あるいは質問、意見等ありましたら、お願いいたします。

## 【山岸委員】

前回の子育て会議で市民活動の団体もボランティアに活用してくださいという意見が出たと思いますが、この提言書の10ページの⑧、市民交流テラスというのが市民活動団体に当たりますか。

## 【事務局】

この⑧については、最後に「など」という形で、ほかにもいらっしゃる色々なボランティアさんを包含して書いてあるつもりですので、基本的にはそういうご理解で大丈夫です。

## 【副島委員長】

あんまり限定的に考えないで、市内でもボランティアでいろいろ活動してくださっている方もたくさんいますよね。今までそういう方たちの力をうまく活用できているかと言うと、そうではないこともあるでしょう。自分たちで機会があればもっといろいろなことに貢献したいと思っている方もいると思うので、このような子どものための政策みたいなところで、ちょっと風穴を開けたいなというのがあっていいのでしょうか。1つこういうので色々なところと絡んでくると、じゃあ、自分も何かという話が出てきたら一番いいなと思っています。単なるちょっとした記述だけど、

ボランティアのことをきちんと入れるかどうかというのは大きいと思います。

最初のプランは皆さんのところに先に送られてきていますよね。この提言書について、いろいろなことを感じられたと思います。私のところにも送られてきて、この会議の打ち合わせみたいな機会があったものだから、例えば、5ページの図で、「これだとこども政策課だけの事業になるよ」という話をして、「教育委員会と組んでやったということの意義をもっと打ち出さないと、この図ではわからないと思う」と言って、学校教育課を入れていただきました。よそからいうと、大したことではないみたいだけど、市の中の組織では全然別組織ですから、組織が一緒になって動いているというのは強調しておかないと、「こども政策課の事業ね」という感じで終わってしまうともったいないという気持ちがありました。

伊藤副委員長は、そこは気がつかれましたか。

## 【伊藤委員】

読んでいて、いろいろありました。今、副島委員長がおっしゃったところも気にはなっていて、この図ももう少し何か書きようもあるのではないかなと思うところはまだちょっとあります。確かに、学校教育課を入れていただいたのは、本当に大変よかったことだと思います。

学校の中で起こっていることなので、そこに学校教育課が入っていないというのは、やはり不思議なことであると私は思います。ですから、全面的にバックアップしていただいて、総ぐるみで推し進めないと、本当に子供たちにとって居心地のいいものが提供できるかどうかとても不安になるので、バックアップできる場所はもうみんな巻き込んでお願いしたいなと思います。

それから、提言書の裏側の1ページ目ですが、何か国に言われたからという感じでこの話を進めていくつもりだと取られるような文面になっており、そうではなくて、小牧市は子供のことを一番に考えるというNO.1都市を目指していらっしゃるのならば、小牧市としてこの制度をどう捉えて、どのように発展させていきたい、どのように協力していけるかということをもっと本気で提言していただきたいなと思います。

国の策だから、それに乗っかってやっていますよというものは、市民は誰も期待していない。やはり、その地域に合った実情を踏まえて、子供のことを本当に一番考えてやってくださっているのだということがわかるような形で進めていきたいという文言があってもいいのではないかと、私はこの「はじめに」を読ませていただいてまず思いました。ここにいらっしゃる方も皆さん、そのような思いじゃないかなと思いますが、行政のお仕事はそういうものかもしれませんが、ちょっと再考いただけたらありがたいと思います。

## 【副島委員長】

事務局としては非常に正直だなと思いましたが、国から言われたのでこの機会に前から考えていることを少しやってみようかというくらいのことかなと思うのだけれども、アピールしたいのであれば、もう当然こういうことを考えていたけれども、国からそういう提言が出たものだから、渡りに船でこういうふうにやりましたという言い方をしてもいいのかなというのは、今の伊藤副委員長はそんなニュアンスですかね。

図のことも出ていたのだけれども、例えば、ワードで書いたものでなければいけないというわけではなくて、ほかでつくって貼り付けても別に構わない。もう少しわかりやすくというのものもあるし、表示の仕方も少し考えてもいいのかなと思います。今、いろいろなものがすごく見栄えがよくなっているものだから、地味だとみんな見てくれないということは多少あるかなと思います。

例えば、7ページの【実施体制図】の中の説明1つに、協議会が3つあって、その下に3つありますよね。これは左寄せで書いてあると何か説明みたいに見える。この図の中の1つとしてこれをするなら、これを中央に持ってきてもそれだけで雰囲気がちょっと違う。内容を変えろとま



では言わないけれども、そういうところを少し工夫されてもいいかもしれない。大抵読むと、提言書で注目するのは図です。図のところでどういう書かれ方をしているかというのはすごく大きいです。図がない提言書はほとんどの人が多分読まない。だから、図だけでもちょっと見てみようかなという気持ちになるので、その図はもう少し考えてもいいかなと思います。

今の時代だから、ネットで最終的には上げるので、カラーをつかっても一向構わないと思います。印刷だけ考えていた時代と同じやり方をする必要はないのかなと少し思います。

勝手なことを言いましたが、ほかの方も色々気がついたことがありましたら、よろしくお願ひします。

## 【山田委員】

このカラーのところで一番下に、市：運営協議会、学校：学校運営協議会という言葉がありますが、資料1の7ページ、8ページだと、運営委員会という言葉だとか、協議会という言葉だとか、いろいろな言葉が入り交じっていて、何が運営協議会で何が運営委員会なのか、少しこの辺がはっきりしないのですが、これはどのようなすみ分けがあるのでしょうか。

## 【事務局】

資料2と資料1の7ページの【実施体制図】の話だと思いますが、資料2のこれは運営協議会ではなくて、運営委員会の誤りです。大変失礼しました。

先だって、今回の委員会の運営について委員長と御相談させていただく中で、委員長からも御指摘いただいた部分ですが、7ページと資料2のこの運営委員会もしくは協議会というのが、一見固有名詞に見えて固有名詞に見えない表記になっていて、何のことがよくわからない。本来であれば、頭に小牧市放課後子ども総合プランというのがつくのが正式名称になりますが、資料上は各スペースの都合等があるので、今回は少し省略して作ってあります。

あくまで、7ページの市で1つ設けると言っている運営委員会、これは、市の総合プランの総合的な方向性の決定及び評価、検証を行うところになりますが、こちらと資料2の市の運営委員会は同じものという形になります。

7ページの矢印で上下に向かってその下の学校区毎の協議会というのが、市もまだ本決定ではないのですが、資料2の学校運営協議会というこの組織も活用しながら進めるという形を検討しておりますので、こちらとこの7ページは同じものという形になっています。

どちらにしても、総合プランの仕組みを支える集合体になりますので、資料2の上では、その支える体制の上のところを持ってきてあるという形になっております。最初の話へ戻りますが、提言書と資料2を眺めたときに、運営委員会って言葉だけ主に見れば、どこにでもあるような名前になっていて、これらが同じものかどうかが判別できないというのは確かにあるか思いますので、資料1の7ページと資料2のその名前の書き方は、少し検討が必要かと今感じております。

## 【副島委員長】

その内容も少し前に議論しましたが、やはり事務局から聞くと、国の通知が協議会や運営委員会という言葉を使っているからということと言われましたが、見ているほうから言うとわからない。一般名詞みたいに思ってしまい、固有名詞にはとても思えない。やり方は色々あると思います。例えば、括弧して小牧市からずっと全部書いて、略称なんていって子どもプラン委員会や子どもプラン協議会だとか、やり方は幾らでもあると思っていましたが、あんまりそういうところで攻めるのはと思ってちょっと遠慮していました。だけど、このように図で出てくると、余計そういうことを思います。

他にも例えば校長先生でも、どこの、何のことを指しているのかと多分思いますよね。だから、

そうするとせっかく出しても損をしちゃうなということは思います。

この図のことは、実は後からまたやろうと思っていましたが、両方見比べるといろいろなことがわかってくることもあるのかなと思います。

図のほうも含めて、いろいろお考えだとか、印象だとか、質問だとか今日ありましたら出していただいて構いませんので、よろしくをお願いします。

一番最初に利用者向けの案内書みたいな図も送られてきましたよね。これはこれで意味はあるのだけれども、提言書につけるものではないということがあって、色々検討してもらいました。

### 【伊藤委員】

5ページの総合プランの体制図について、紙1枚で横に大きくすることはできないのですか。そうしたらもうちょっと何か工夫ができるのではないかと思います。1つ前にも意見が出ていて気になっているところが、放課後子ども総合プランコーディネーターさんは、矢印の方向が学校地域コーディネーターには全く向いておらず、ここは本当にこの図のままでもいいのかなと思います。そのような意見もあったと思いますがいかがですか。

前のお話だと、矢印がたくさんここに入り込んで来ると見にくいのでおっしゃったから、図を大きくして、それこそ副島委員長がおっしゃったように、インパクトを与えるためにも、大きくて見やすい形のものはいかがでしょう。矢印がスリムに、あちこち向かないでという方法をもう少し考えて、ぱっと見てぱっとわかるというのがやはり図のいいところなので、ちょっとこの体制図をもう一度考え直されたほうがいいのではないかと私は思いますがいかがでしょうか。

### 【事務局】

1枚これだというのは当然可能な話だと思います。この大きさだと見づらいですけども、今回、所長とコーディネーターさんを点線で囲うということをしていまして、総合プランコーディネーターとのその相談、助言というのは、一応この点線まで組み込んでいます。ちょっと苦しいので、これをもう少し全体にわかるようにすればと思います。

### 【伊藤委員】

やはり、ぱっと見てわかるのが図のいいところなので、今みたいな説明を係長が一々この紙を持って説明しに行くわけにはいかないの、もう少しそこを丁寧に図で表していただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

### 【事務局】

検討させていただくことを考えていこうと思います。

### 【副島委員長】

先ほどカラーもと言ったのは、この図と別にバックグラウンドでカラーに囲った部分があると、ここが1つの固まりというようなイメージが説明しなくても出てくる。だから、この図で全部説明しようというのはなかなか難しいと思いますが、例えば、児童クラブの所長も学校地域コーディネーターも、放課後子ども総合プランコーディネーターも一緒の色のところに入っているというようにしたら、一体化みたいなのはイメージが出てくると思います。だから、せっかく図でやるのであれば、そういうことを考えたほうがいいのではないかと思います。

最終的には、市のホームページに上げる形になるでしょう。そうしたら、カラーにするということは、マイナスどころかずっとプラスになります。そこで白黒で出されても、読もうという気が起こらないでしょう。カラーになったら、図だけでも見ようという場合があって、「あっ、この



3つが三者一体となってやろうとしているのだなというイメージが出るので、そういうことも工夫してもらえるとありがたいと思います。

何かいろいろな意見を言っていたら、こういうのが多少反映されているので、意見が言いにくいかもしれませんが、どうでしょうか。

それでは、基本的にいろいろな意見を聞いた上でつくられたというもので、今日話が出たのは、「はじめに」の書き方も少し考えてもいいかなというくらいのことでした。もう趣旨まで変えるようになって誰も言っていないわけですから、小牧市はこういうのに一生懸命やろうとしているのが出るような形にしていただければいいよという程度のことでした。それから、図などももう少しわかりやすく、図である程度説明ができるようにしたいと提言書のほうは出ていました。

総合プランの図のほうにちょっと移りたいと思います。これに関してもう少しデザイン的には何とかできるかなと思いますが、こども政策課や部にはこういうのが堪能な人もいませんか。1人で頑張らなくても「何か見やすくしたいんだよね」というふうにすれば知恵を出してくれる人がいるんじゃないかと思えますし、学校教育課も絡んでいるから、教育委員会にも投げてみてもいいと思います。「これ、もう少しわかりやすくしたいんだよね」というふうでやっていただいても構わないです。

逆に言うと、そういうことから連携が始まると思います。「自分の責任だから自分1人で何とかせないかん」というような発想で、「ああ、あいつの担当だから」というようなふうに周りがみんな見ていると、そういう行政を私たちは望んでいませんよね。こういう機会にみんなで協力してくれるような行政になってほしいなど、多分ここに来ている人、みんなが思っていると思います。「これは私の担当です」とか、「これは私ではありません」とか言われるのが一番嫌だと思うので、ぜひこの辺もお願いしたいなと思っています。

最後の機会になりますので、この委員をやってきて、この提言書までやってきましたので、一言ずつ、皆さんでいろいろな感じたこととか、期待することとか、もうちょっとやってみたい、やってほしいとか、自分のところではもっとこういうふうにやっていきたいとか、そういうことも含めて結構ですので、ぜひお願いをしたいと思います。

中川さんからお願いします。

## 【中川委員】

ありがとうございました。

私は、あらかじめ送られてきた図より、今日見せていただいた図のほうの方がわかりやすいなと思いました。もっと色をつけたり、そういうことは副島委員長がおっしゃったように、修正していくとさらにいいかと思いましたが、書きぶりとしては、すごく今回のほうがいいなと思って今日は見せていただきました。

昨年度からこの会議で参加してきて、放課後子ども教室と児童クラブが一緒になるということ、最初は何でかなとか、うまくいくのかなと思っていました。本当に今まで違うことをやってきた方々が一緒にやるということで少し困難なこともあるなと思って見て、学校ができることは何かと考えてきましたが、つくる中で何回も出ていた子どもたちのためにということを通じて、委員会に参加させていただきました。

学校も今まで児童クラブと関係はもちろん持ってきて、情報交換等もさせていただいて、いろいろ困ったことがあると学校に相談してくださったりしていましたが、やはり何かちょっと児童クラブと学校は、それこそ学校教育課とこども政策課という感じで、私たちもあんまり毎日、「こんにちは」って行くにはちょっと遠慮があったりする部分もありました。このような提言書をつくるとか会議を開くということで、確かに提言書とかができると1つの結果として残るもので、

プランとか作っていくことはいいことですが、こうやって、「ああ、児童クラブの方ともっと気軽に情報交換していいんだな」とか、コーディネーターの方は、学校にあまり迷惑かけちゃいけないとすごく思ってください、学校に遠慮してみえる部分もあったりするので、でも、そうじゃなくて、もっと本当にフランクに学校と児童クラブと放課後子ども教室がみんなですべてこれを機会に、連携をこのまま続けていって、またさらにいいものにするために、みんなで一緒にやっていたらいいようにしたい。学校のほうにもそういうことを、私はたまたま会議に出させていただいているので学校に帰ると職員にも伝えていますが、市の学校全体にもこういうことを伝えたり、中学校にもこういうことをやっているよということ、やはり学校に勤める教員全てに伝えていきたいなということ、をすごく思いました。

すみません、突然で何を言ってもわかりませんが、ありがとうございます。これからはお願いします。

### 【倉知委員】

ありがとうございます。勉強になったことが多かったですが、光ケ丘小学校が来年度のモデル校になるということで、今見ても、光ケ丘小学校では児童クラブと放課後子ども教室がとても連携してやっていたらいい、本当ありがたいなと思います。ただ、どの学校も同じようにできるかといったときに、できないこともあるのかと思うので、いいところをできるだけ伝えられるように、または、うまくいかないことをどうやって解決していったらいいかということ、をこれからも発信していけたらなと思います。

少し不安に思っているのは、今年もそうですけれども、コロナ対策ということで、放課後子ども教室の希望者が全員入れなかったということを知っています。本校は少し多かったのですが、無理して希望者全員入りました。この図を見ても、放課後子ども教室は全ての児童が利用できるというふうに銘打っていますが、実際にコーディネーターはじめ、そういう講師の方の人材の問題とか、あと、各学校で言うとやはり環境面、教室のことやエアコンのことなど、受け入れるのにいろいろ制限もあるので、そこら辺が希望者全員、本当に受け入れていけるのかという不安があります。その辺が市のほうでできるだけ環境を整えていただいて、どの学校でもできるようにしていったらいいなと思っています。

### 【佐橋委員】

この放課後子ども総合プランの関係を最初に見たときに、コーディネーターさんでも、「無理だよ」というのが一番最初に上がった声で、私たちの学校でも、やはり「無理だよ」というのが最初にありました。こうやって会議とか出させていただいて、モデル校のほうも、「無理であつたら無理でもいいですよ」という形でお引き受けしましたが、いろいろな方の御意見とか情報交換していく中で、やれることから無理せず手をつけていけばいいかなと、不安が少し払拭されたところではあります。私たちのモデル校で無理なくできたことをほかの学校とかにも少しずつ広げていけるということができたかなと思っています。ありがとうございます。

### 【山井委員】

ありがとうございます。

スタートした時は、光ケ丘小学校では、それこそこういうところで予算の話とか全くわからないもの、もう児童クラブと自分たちができる範囲内でせいかくの子供たちに、私たちはたまたま廊下でつながっておりますので、講師さんと呼んでいるのに、廊下を歩けばつながるの、ということもあり、たまたま柿本先生ともつながりがあったので合同でやることを年に1、2回させていただいております。

この会議に出てみると予算もありということでしたが、実際に今回も児童クラブから御紹介いただいた先生を前回呼んでこま作りをやっていただきましたが、最初の行き当たりに、私たちは講師料3,000円を払いますということを言いましたが、児童クラブのほうでは、講師を呼ぶのに図書券500円しか出ない。それが決まりですということで、とても温度差がありました。そこへボランティアセンターから講師を御紹介いただく機会があり、その先生にもやまもクラブと児童クラブのほうで、同じ先生を呼ぶのに、こちらは500円です、こちらは3,000円ですということを、センターの先生に間に入っていて御理解いただきました。それでもその下に、このようにつながっているボランティアの方たちは、それじゃなくて、子供たちとつながる、笑顔を見ることが幸せですということで、そこだよなというところをまた実感して、とてもいいお話ですが、やはり子供たちの笑顔を見るために、皆様が手を取り合っていくことからスタートしていくのに、その予算だとか、もらう人たちはとてもやりにくい。

今回もそのようだったので、こま作りの先生には、実際に図書券500円でやっていただきました。しかし、柿本先生にもお話して、来年からは正直にといいか、当たり前に出ているものですから、こまの先生には申しわけなかったですが、来年からは、講師料3,000円とはっきり言わせていただきました。お付き合いしてみたらそれでも受けてくださる方であったので、正直にやっていたらと思ったのですが、確かに500円ですよという、これを聞いてみたかったかなという、このいろいろ羅列していることじゃなくて、現場のちょっとしたことをいろいろ質問したかったので、今、最後に何か御意見をと言われたので、ぜひその辺をちょっと改善というか、わかりやすく、予算も隠さず、私たちもこれだったら講師さん呼べるなと思えて、お互いに入っていけるような図が欲しいなと思っております。

ととても下のほうですが、でも、やってくださる講師さん方はとても満足して、この間も500円の図書券で4人来てくださいました。図書券1枚なんです。もう私たち立っていて、最低の1時間のお金をいただいているにも恥ずかしいほどの手前で準備もして下さっていたりとか、そういうことを考えると、何にもお金じゃないというところで小牧市のボランティアの方たちは動いてくださっているの、正直に児童クラブだ、放課後子ども教室だじゃなくて、「こういうふうです」と見せられるものがあって、「お願いできますか」と気持ちよく来ていただけるような形を切望しております。これからも頑張っていきたいと思います。よろしくお祈りします。ありがとうございました。

## 【伊藤委員】

ちょっといいですか。

ボランティアもいろいろな種類があって、有償ボランティアと無償で動くボランティアとあります。それぞれのボランティアの活動してみえるグループごとに、絶対いただかないっておっしゃるところもあるし、これだけやっているからいただかないというところもあるので、一概には、ボランティアをお連れしたから市ではこうですというのをお見せするのはオープンにするという意味では賛成だけれども、精神論で言うと、いろいろなグループさんがみえるので、そこは少し気をつけていかないといけないところかもしれないです。お連れになっているところはどのグループの方かはちょっと存じ上げないのであれですけども。

ごめんなさい、どうぞ、進めてください。

## 【山井委員】

ボランティアセンターの書類に、そのような無料でいいですよという方なのか、来ていただくときはどうなのかが分かります。お茶1本でも欲しいですよという人もいらっしゃる。その1本の予算をどこから出していいのかということもありますし、無償でいいとおっしゃるけれどもお茶が

1本出るとうれしいと言われると、お茶を出したいけれども子供たちの工作費から出していいものか。なので、本当に来ていただくにはどこからお金を出していいのか、それも迷います。

### 【伊藤委員】

長く続けていくと悩まれることがちょっとストレスになると思うので、やはりそこは改善していかなければいけないところで、例えば、お茶代は出す予算に入れますとか、何かそういう決まりを統一で出されてもどうかと思います。

### 【山井委員】

はい。私たちも自分たちで決められないので。

### 【伊藤委員】

そういうことになるでしょう。だから、それは少し違うかなと思うので、全体的にここでまっとうやっていこうとなるから、これからもそういう問題は度々出てくると思うので、そこはオープンにするなり、取り決めをつくられたほうがいいので、話し合いの機会を持たれたらどうかと思います。

### 【山井委員】

ありがとうございます。

### 【山岸委員】

放課後子ども教室立上げのときは、私が学校地域コーディネーターとして関わらせていただいていたのですが、今現在はもうその立場はなくて、一安全管理指導員として関わらせていただいているのですが、このようなそうそうたるメンバーのところで勉強させていただいて、こういう機会を与えていただきまして、ありがとうございました。

先ほど、佐橋さんも言われていたのですが、実際、この総合プランのことを聞くと、現場では、「もう絶対無理だよ」という言葉がもう第一に出てきて、児童クラブとか、目的も全然違いますし、今は全然関わりがないものですから、「もう絶対無理だよ」というのが現場の意見です。

私はこういう機会を与えていただいているので理解していますけれども、実際、現場はそのような考えなので、現場の人たちにも伝わるように、なぜこういうことをやるのかということ伝えていただきたい、そういう機会をぜひ持ってほしいです。

今、味岡小学校はモデル校ではないですが、来年度、もしできることがあれば、少しずつでも今やっている活動で、行動できるなという活動があれば、ちょっと児童クラブに声をかけさせていただいて、やれることがあったらいいなと思っています。

以上です。ありがとうございました。

### 【中嶋委員】

小牧児童クラブの中嶋です。

2月に、係長から大事なお話があるからと言われてまして、何だろうとまずびっくりしました。まず、「あっ、やめさせられるのか、異動か」という話を念頭に置いて会いに行きましたが、来年度、こういうわけでモデル校になったということで話をされまして、これは、もう光ヶ丘と小牧だと言われました。

その話を持って児童クラブに行きまして、ほかの支援員の先生たちに打合せの議題で出しましたところ、ほとんどの方は好意的には受け入れていただけませんでした。「できません」というこ



とで、「無理です」、そういう意見が大多数でした。

私の意見としても、今までずっと関わってきたところを見ると、どうなってしまうんだろうと、まずそれが第一に思い浮かんだところです。

それから少し3回ほど会議に出させていただきまして、放課後子ども教室もやっと9月から小牧小では開催されまして、例年と違い今年度は火曜日が5名、木曜日が10名、児童クラブから参加しています。コロナ禍のせいかもしれませんけれども、例年で見ると本当に人数が少ないんですけれども、ここの会議でお話を聞いていることによって、子供が帰ってきて、児童クラブへ帰ってきたときの受け入れる、こちらの気持ちが私的には変わってきました。「あっ、よかったね。楽しいことをしてきてよかったね。じゃあ、クラブに残っている子供たちに教えてね」と。ささやかなことですが、そういう言葉が出てきます。自然に出てきています。だから、「ああ、こういうことは、やはり中身を知ってからでないか…」。知らないうちは、拒否するのは簡単ですが、「知らないか、何でも受け入れることができないんだな」という、まずそういうことで、ここに参加させていただきましてことをありがたく思っています。

佐橋先生ともつながりを持つ意味で、長期のときに毎回お願いしておりますので、また、よろしくをお願いします。

以上です。

## 【馬場委員】

今年から委員になったのですが、正直、保護者という立場なので表の部分しか見えないというか、裏で予算のことがあったりもですが、色々なことがあって子供たちが楽しめる環境ができているというのを、そこまでしっかり知るといことが今までなかったのが、今回、この会議に参加させていただいて、そういうこともわかってすごく勉強になりました。

自分の子供は来年、小学校6年生になって、光ヶ丘なのでこちらのほうには参加できないのですが、近所の子で1年生、2年生の子が結構いるので、多分こういうものに参加することになると思うのですが、多分うれしそうに折り紙とかいろいろなものを持って、「わあーっ」と言って多分帰ってくるのではないかなということを期待しています。

今でも小学校のホームページ見ると、放課後子ども教室とかのページを見ると、すごくやはり子供たちが楽しそうにしている、「ああ、いいな。よかったな」と思えたりしました。なので、来年度も、私がこの会議に参加するかどうかはちょっとわかりませんが、また、参加しなかった場合でも、ホームページなり、その近所の子供たちの様子を見て、「どうだった」ってちょっと声をかけたりとかして、また、何か意見できる機会があれば、ちょっと御意見させていただければなと思います。ありがとうございました。

## 【鈴木委員】

この会議に参加させていただいて、このプランができあがったときに利用する側として考えて中を見ることができましたが、表面というか、利用する側はできあがった表面しか見ないので、すごく楽しいことをしてもらえ、子供は喜ぶという図しか見えてこないのですけれども、中で、いろいろ策を講じてくださる方々の御苦勞をすごく身にしました。

4回参加させていただいたので、お話を伺っていて、いろいろ壁が高いのだなというように少し感じまして、児童クラブだったり、放課後子ども教室だったり、児童館だったり、市の関わってくださる方々だったりという、部署ごとの壁がすごくあって、すごくなじまない仲を感じまして、そこがちょっと取り払えられるというか、融和できるのかなと思いつつ参加させていただきました。

実際に母だったり子供として、その活動に参加するに当たって、いろいろ用意してくださる方々



がいるそのセクションごとにいろいろな幅を持って、柔らかく交じれると、将来を担ってくれる子供たちの支援というか、育てるということがこの小牧の未来かなと思うような、壮大な意見になってしまうのですけれども、そういうことができるようになるのかなと思いつきながら聞かせていただきました。

市でも、学校側でも、それにはいろいろ関わってくださる方々が積極的にフォローや幅のあるところを続けてくださるといいのかなと思つきました。

ありがとうございました。

## 【寺田委員】

篠岡児童館、寺田です。

私は今年度からこの会議に参加させていただいております。始まる前に、山田さんが児童館にいらして、このプランのことを一生懸命お話しされました。こんな私でも何か力になれるのかなと思つて、毎回会議に参加させていただいてはいたけれども、何もお役に立てず、すみませんでした。

小牧市は子育て支援にとっても力を入れられていると思つています。私は、他市の人間なので、私からみると、「小牧市で子育てしたかったな」と思つてはいますけれども、学校なり、クラブなり、子ども教室なり、児童館なり、子供が集う場所、過ごす場所、学ぶ場所、それぞれあると思つています。でも、それぞれの役割はあると思つていますけれども、これだけ小牧市が子育てというものを大切に、子ども支援というものを大切に行っているのであれば、私も鈴木さんが言われたように、それぞれの役割はあるけれども、どうにかみんなで手をつないで、子供が健やかに育っていくお手伝いを連携してできないものかということ、この会議に参加しながらすごく感じておます。じゃあ、児童館にはどんな役割を果たしていけばいいのかな、私たちはどういうことをしていけばいいのかなということもとても考えさせられた、そんな時間だったと思つています。

1つだけ、この提言書の中のまた図のほうをほじくり返しますが、この5ページの体制図について、一番上に、こども政策課と学校教育課という図ができていますと思つていますけれども、どうしても、ずっと下を見ていくと、やはり子供たちというのが一番何か底辺にいるような気がして私は見てしまいます。それを上下ひっくり返せないのかなと思つています。また、子供たちの過ごしている、楽しいと思うものが一番で、子供たちというのが一番上で、それを指導される先生方とかが支えていって、そして、学校教育課とこども政策課が全体の器となって子供たちを見ていく、みんなで考えていって、子供の楽しい姿があるという図に変えていただければお願いいたします。

「はじめに」もそうですけれども、小牧市として、子供のことを考えてやっている、一番というところが、この図にもすごく現れるのではないかなと思つると、その順番を考えていただくことで、「あっ、子供のことをすごく考えている。あの先生が携わって、こういうところが携わっているんだ」というふうになるといいのかなと思つて、この図をちょっとお話しさせていただきました。また、できればいいのですけれども。

私自身もこの会議に参加させていただいて、とても勉強することがありました。これからも児童館、一職員として、子供たちと有意義な時間を過ごしていきたいと思つていますので、また、皆さんの力もお借りしたいと思つています。これからもよろしくお願ひいたします。

## 【香村委員】

北里児童クラブの香村と申します。去年から参加させていただいているのですが、余りお役に立てず、本当に申し訳ない限りです。

先ほどからもほかの方もおっしゃっていたように、最初、放課後子ども総合プランという話を

聞いたときに、児童クラブサイドでは、「毎日毎日、子供と保護者の対応できゅうきゅうとしているのに、そんなことできるのかな」という気持ちと、それから、知り合いの子ども教室の方の中には、「児童クラブに吸収合併されるなら、もうちょっと考えようかな」というふうに、結構少し否定的な意見の方が周りにたくさんいました。私も、この委員に任命されたのに、自分の中ではちょっと、「うんっ、どうなのかな」という周りの意見があって参加させていただいたのですが、いろいろ回を重ねていくに当たって、児童クラブと子ども教室だけで、やっていけないといけなかなと思っていたのですが、こうやって本当にいろいろな方たちの支えがあって子ども総合プランができあがっていくのだというのを、本当に会を通じて考えていくことができたので、もう少し、肩に力を入れなくてもやっていけるのかなという考えが生まれてきました。

本当に、もう完全に一つになっちゃうのかなと思っていたのですが、やはり子ども教室は子ども教室のいいところをずっとこのまま継続し、もちろん児童クラブは今の児童クラブとして、どこかで一緒に活動して、子供たちのいろいろな姿を見ていくという形にやっていくというのをもっといい形でやっていただいて、こういう形ならば、少しずつでもできるところからやっていけるのではないかなと、大分前向きな気持ちになってきました。

先ほども、無理せず、できるところからという御意見もたくさん聞きました。私もそう思います。最初から大きな花火を打ち上げるのではなくて、小さく産んで大きく育てるって子供のことを言いますけれども、こうやってできるところからどんどん広げていくといいのではないかなと思いました。

子どもにもいろいろな放課後の選択肢ができるのだろうなという気もします。もちろん児童クラブには仕事をしている保護者の方、それから、放課後子ども教室、児童館もすごく頼りになる存在だなというのをこの会を通してすごく感じましたので、何か自分で煮詰まったときに、そういったところに相談できる場所がたくさんあるというのも、すごく気持ち的に楽になりました。

本年度から所長という立場ができましたので、今回も所長として何ができるのだろうということをお考えながら参加してきました。本当にこうしたいろいろな方が支えてくださるというふうに思えるようになりましたので、会議に参加させていただいて本当にありがたく思いました。ありがとうございました。

## 【柿本委員】

光ケ丘児童クラブの柿本です。

来年モデル校になるということで参加させていただきましたが、まずは、今までの意見とちょっと違って、光ケ丘は、児童クラブと、放課後子ども教室のほうに長年にわたって、年に2回ぐらい合同で、クラブが参加させていただいているという形なのですけれども、こども教室のイベントに参加させていただいていますので、お話を聞いたときに、余り抵抗感がありませんでした。

それで、こちらのこの会議に参加させていただいて、この気持ちで参加してよかったのだろうかというぐらい、学校、いろいろな組織というか、問題点とかそういうのを、参加させていただいてそんなに問題ないよという意見が少し私の心の中ではありました。子供たちを見ると、本当に児童クラブの子も、毎日お母さんが来る、保護者の方が来るのに、毎日学校へ行って、光ケ丘小学校の中なので、学校で待っているというのもあれなんです。そこで、折り紙をしたりいろいろやるのも楽しいのですが、イベントというか、ボランティアの方が行っていただいて何かやっていただくのに参加するというのも、子供たちは最初「嫌だ」とか言っているけど、もう参加するととても明るい顔になって、すごく楽しくなるんですね。夏休みには、光ケ丘児童クラブもボランティアの方に来ていただいて、そういうものを何回かさせてもらって、子供の反応がとてもいきいきして、やはりこういう、来年度なんか学期に1回か2回、そういうふうに組むとか、これから2回、今年度はやるということもありますが、それを話し合うときはちょっと大変でしたが、

きっと多分、子供たちはそれを見たときにはとてもうれしい、明るい顔になって、「面白かった」って多分言うと、もう今までの経験でわかっているの、こういうことはいいのではないかなと思っております。

結局というか、今までも聞いていて、本当にいろいろな問題点がありますね。組織が違うもの、ですから。でも、回を重ねていくことによって、そういう問題も解決されていくかもしれないし、また、新しいのが出てくるかもしれないのですけれども、こういうことはいいのではないかなと思っております。

それから、この体制図のところでもですけれども、この5ページのところの、放課後子ども総合プランコーディネーターと児童クラブの所長と、それから、学校地域コーディネーターというところ、本当にここを丸く囲んで、先ほど何か色をここで主張したりとありましたけれども、本年度、いろいろなイベントの話し合いをしたときにも、やはり、山井さんと、私、それから、山田係長さんと3人で話し合っ、やっとな決まるようなことなので、ここはもう本当に囲ってもらって、話し合っこれが進んでいくという形がいいです。そういう感じです。

いろいろ御意見聞いてやっていきたいと思います。よろしくお願ひします。

## 【山田委員】

小牧市社協ボランティアセンターの山田です。長きにわたり参加させていただきまして、ありがとうございました。

2点お願ひしたいと思ひます。

1点は、4ページの表で、別にずっと言っていました、児童クラブの皆さんの処遇が改善されたということで、すばらしいなと思ひしております。

さらに、こちらの右側の学校地域コーディネーターさん、現在はボランティアの待遇のような気がしますが、これから、やはり総合プランによるとさらに仕事が増えたり、責任も増してきますので、本人等は言えないかもしれませんが、そういった学校地域コーディネーターさんの処遇もぜひ改善していただけると、さらにいいのではないかなと思ひしております。

それから、2点目は、5ページの表に戻りますが、先ほどもボランティアさんの謝礼というようなお話がありましたけれども、この一番右の線が「従事」と書いてあるのですけれども、細かいことではありますけれども、「協力」というふうにしていただくと、お金をもらって仕事をしているわけではありませぬので、協力だとか支援だとか、そのような言葉で書いていただくと大変助かると思ひます。

先ほどもありましたが、ボランティアさんが気持ちよくやっていただける環境とか状況をつくらせていただければ、それでいいという方ばかりです、決してお金で動く方はあまりいないと思ひます。そういったことでお茶ぐらいは1本あると、1時間か2時間やっくださるので、出していただくと大変助かりますので、そのような状況でよろしくお願ひしたいと思ひます。

## 【伊藤委員】

十分話はさせていただいてきたのですけれども、教育委員会から参りました伊藤和子です。本当に皆さんにはお世話になりました。いろいろな貴重な意見を、現場でしか味わうことがないような経験談やそういったことを伺うことができて、本当に自分のためにもなりますし、今後子どものことを考える上でも、すごく心に留まったという。皆さん、本当に御苦労されて、現場でお子さんたちを預かっていらっしゃるの、ちょっと今まで関係のなかったところが今回のプランで一致団結して取り組まなくちゃいけないという問題に直面して話し合いすることができたと思ひます。多分、皆さんもいろいろな立場の方がいらっしゃるのだなということがよく御理解いただけて、本当に子供たちのために役立てる会であってほしいし、これで終了でなく、これ

からもずっと子供に関することは続いていくので、行政の方も一緒に巻き込んで、ちょっと辛辣な言葉も出るかもしれないですけども、頑張っていけたらいいのではないかなと思います。

私も2期目に委員で入ったので、また4年間、お世話になりますが、子供のために頑張っていきたいと思っています。いい機会を与えていただきありがとうございます。

## 【副島委員長】

ありがとうございました。

この議題としては、この提言書を認めるということが要ると思うのですがけれども、今、いろいろな意見が出てきました。ここはちょっとこうしたほうがいいじゃないかというのがありました。今の時点で一部直したのがベストかなという気がします。今日もいろいろな意見が出されました。もう少し小牧市としての願いみたいなものを出してもいいのではないかな。それから、子供を中心に考えるということをいろいろなところに打ち出したほうがいいのではないかなというのがありました。それから、図でも、こういうことをちょっと工夫したりとかいっぱい意見が出ました。ここでこれからこれをやっている、また、いろいろな声が出てくるし、今、話し合ったのがベストになるかというとなかなか難しいところあると思うので、一応細部に関しては副委員長と私に一任みたいな形にしてもらって、事務局にお任せではなくて、我々も見せてもらって、皆さんの意見はそういう意味ではなくてこういうふうだよというのを反映しながら完成するというのでよろしいですか。そういう条件でこの提言をお認めいただくというような形でよろしいでしょうか。「いや、だめだ」という人がいたらいけません。大丈夫ですね。

これは承認されたということで行きたいと思います。皆さんからいろいろな御意見もいただきましたので、私も最後に一言。

この委員会自体は、本当に狭い話なんですよね。児童クラブと放課後子ども教室を、一部でもいいから合同で一緒に連携してやりたいよねという話をうまくいくようにプランをつくってほしいと。そのための提言書をつくるというのが頼まれたことなので、そういう意味では、皆さん方の今の意見を聞いてみると随分広がっていますよね。それはすごく大事なことで、委員はみんなさん、こういう立場だから選ばれているのですよね。皆さんが、いわゆるポジショントーク、私はこうだから、こういう立場から言うとかいうふうにしてもらわないといけないとかね、言い出して、それで終わってはおもしろくないですよ。

聞いているうちにだんだん、だんだん、最初の考えが変わってきたとか、それが人が集まるおもしろさだと僕は思っている、事務局からいうと、「あいつの運営は何だと」と言われるかもしれないけれども、できれば、もませたいなというのをずっと思ってやってきたので、それは御勘弁をいただきたいというのが一番大きい話です。

それから、もう一つは少し別の観点から言うと、児童クラブとか放課後子ども教室に集まっている子供たちというのは、一般の子供たち全部ではないのですよね。ある意味では、ちょっとあるんですよ。何か条件があって、面倒を見てくれる人がいないだとか、そういうことがあって来てみえる人達ですよ。最近、おもしろいというか、これはためになったなというのは、ちくま新書で『教育格差』という本があって、これを読んでいて、つらいなという感じのところもあるのだけれども、それは何だというと、日本をもっとずっといろいろな面で見ると、生まれた家庭で決まっているのだと。学校へあがる前でもそうだし、小学校、中学校、高等学校、全部それが影響している。大学へ行くか行かないかというのはまたありますが、それで、就職だとか生涯賃金だとか、そういうことも全部含めて、生まれの状況のまま行っているというのをいろいろな統計や調査から全部暴き出したのです。これを考えると、「何だ、今まで学校教育や、子供たちだけ何かやっていたのはどうだ」というと、何もしないとずっと差は開くのですよ。そのまま来ているということは、すごく努力しているのですよ。ただ、全然縮まっていない。生まれの差は全



然縮まっていないというのが結論なのですね。

だから、何だいうと、公平に扱うということだけでは、格差は絶対縮小しませんよというのが結論なのです。もっと強いアクションをしない限り、生まれで一生が決まる。もちろん個人差はありますよ。例外はいっぱいあるけれども、でも、トータルで見ると、そういうのが今の日本だからということから考えると、ここがやることはすごく大きいことがあるのですよね。だから、家庭ではこういうことをとても体験できないようなことをやることによって、ちょっと何かが子供の中に起こるといようなことが大事なのかなということですよ。

それぞれの立場でそういうことをやる。そうすると、今は、結局一生懸命やっているけれども、格差はそのままずっと死ぬまで続いているというのが日本であって、すごくつらい本だったけれども、ものすごく売れているのです。かたい本の割にはすごく売れているというのは、みんなが根っこで少し感じていることがあるのかなと思います。

そういう意味で、この子ども総合プランの策定の委員会も、実は大事な仕事を受け持っているのだなということを思いました。その辺でちょっと力を抜いたら、もう一気に格差の社会になります。すごい格差の世の中になると思います。そうじゃなくて、いろいろな努力をしているから現状でこうずっと来ているのだけれども、もうちょっとそれが何とかできるようなやり方をいろいろなところでやらなきゃいけないし、この放課後子どもプランもそのうちの1つだなという位置づけでやっていかなきゃいけないのだなということをつくづく思いました。

いろいろ取り回しが悪くて、皆さん方、事務局の方にも、こういうのをつくったらどうかとか、いろいろなことばかり言うものだから、随分仕事を増やしていたかもしれないけれども、そういった気持ちが裏にあるということを御理解いただきたいと思います。本当に、この委員会としては2年間、御協力いただきましてありがとうございました。

それでは、事務局にお返しします。

## 【事務局】

長時間にわたり、いろいろと御意見をいただきまして、ありがとうございました。

それでは、次第3、その他に移らせていただきますが、本日御協議いただきました提言書及び概要について、いろいろと御意見をいただきましたので、再度検討させていただき、整えたいと思います。

先ほど、委員長、副委員長に一任をいただきましたので、そのような形で進めさせていただきたいと思いますので、委員長、副委員長におかれましては、いましばらくお付き合いをよろしく願いいたします。

こちらの提言書のほうが整いましたら、今後は教育委員会、校長会にも報告をさせていただきたいと思っておりますし、また、児童クラブや放課後子ども教室に携わる方にも順次お伝えをさせていただくことを予定しております。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、複数回にわたる委員会に御出席をいただきまして、また、貴重な御意見を多数いただきまして、ありがとうございました。

今後は、モデル事業を通じまして、小牧市放課後子ども総合プランのより目指すべき姿を模索してまいりたいと思いますので、お気づきのことがあれば、いつでもお声かけをいただきたいと思っております。

また、引き続き、委員をお願いすることになりました折には、再度、御協力をよろしく願いいたします。

それでは、これをもちまして、令和2年度第4回小牧市放課後子ども総合プラン導入検討委員会を閉会とさせていただきます。

ありがとうございました。